

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A（対象地域の概況）

NO.114		孟子里山公園	生物地理区分		アカマツ林		
			地域区分		中山間地		
所在地	都道府県	和歌山県	地形 条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地	
	市 町 村	海南市		4.低地	5.その他		
	集落名称等	孟子荒糸地区（通称：不動谷）	環境 要素	1.二次林	2.草地	3.水田	
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池	
				7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林	
				10.その他			

環境要素（対象とする地域に含まれる環境要素）

：面積割合が最大のもの ：それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
現在は大池貴志川県立自然公園の一部であったが、和歌山県の県立自然公園の抜本的見直し事業により、平成 21 年度に当該公園は公園区域の指定解除が行われた。	「田園自然再生活動コンクール」受賞（H17）
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
<p>稲作水系及びとんぼ池全般のトンボ相</p> <p>平成 10 年以来の調査により、孟子里山公園内で確認されたトンボ類は 66 種に上る。この種数は、里山で県下で確認される種のほぼ全種に当たる。</p> <p>ビオトープ孟子管理のとんぼ池には、ベニイトトンボ、ネアカヨシヤンマ、フタスジサナエ、アオヤンマ等の貴重種指定のあるトンボ類の羽化・産卵記録があるほか、ニホンアカガエル、カスミサンショウウオ、アカハライモリ、トノサマガエル等の貴重両生類の産卵環境となっている。また、貴重昆虫・ハネナシアメンボも産している。</p>	写真集などの出版物がある、風景探勝や撮影の来訪者が多い

	 
<p>撮影時期：H20 年 4 月</p> <p>写真の説明：孟子不動谷（孟子里山公園）全景</p>	<p>撮影時期：H20 年</p> <p>写真の説明：孟子不動谷で記録のある主な貴重種</p>

NO.114		孟子里山公園	取組主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	和歌山県		2.団体・企業・学校等
	市町村	海南市		3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	孟子荒系地区(通称:不動谷)		4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他

取組 主体	主な主体の名称		(特)自然回復を試みる会・ビオトープ孟子	
	その他の主体の名称			
目的 ：主 ：その他	1.農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化(伝統的なものも含む)			
	対象・取組内容		(特)自然回復を試みる会・ビオトープ孟子(以下、「ビオトープ孟子」という。)が活動を開始した平成10年2月1日現在と比較して、現在(平成21年)地元農家の方々による耕作水田は半減している。そんな中、稲作水系に依存する動植物の保全のためには無農薬の水田を増やす必要があるのと、会の運営資金を無農薬水田で収穫した米を販売して得ることを目的として、平成18年より無農薬水田および無農薬畑地(ソバ中心)を開始した。 その結果、会発足当初より管理している「とんぼ池」等を含めて、現在ビオトープ孟子が管理している放置水田は孟子不動谷全耕作面積の半分を超えている。	
	支援措置			
	2.バイオマスなど新たな資源としての利用			
	対象となる資源			
	利活用方法等			
	3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用			
	自然観察会	*	ホタル鑑賞会・野鳥観察会等多数	
	環境教育・学習活動	*	林間学校、周辺小中学校の環境教育受け入れ等	
	里地里山体験・環境保全	*	とんぼ池の管理、無農薬耕作、動植物調査	
	農林業体験活動	*	無農薬耕作、炭焼き体験	
	エコツアー	*	大旗山エコトレッキングその他	
	その他			
	4.野生動植物やその生息地の保全・管理			
	取組内容		、とんぼ池の管理 ビオトープ孟子発足当初より稲作水系の動植物の生息拠点としての「とんぼ池」を管理している。 そこに生息している貴重種の状況は上記したとおり。 、無農薬水田 「食の安全」を追及する販売用無農薬米の生産の場である無農薬水田は、トサマガエル、ツガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホナマガエル、アカライゲリ等の両生類、シメビ、ヤマカガシ、ニホナムシ、ヒバカリ等の爬虫類、ヒメアメンボ、ナミアメンボ、マツメシ、キイトンボ、モノサシトンボ、シオカトンボ、オシオカトンボ、ハラビロトンボ、ヒメアカネ、マユタテアカネ、アキアカネ、リスアカネ、ネトンボ等の昆虫類の宝庫となっている。	

	5.地域の良好な景観の保全・修復		
	取組内容	<p>、無農薬稲作・畑作の実践 放置水田が増加傾向の孟子不動谷の水田景観を保全する意味あいにおいても、ビオトープ孟子の無農薬水田および無農薬畑地（ソバ畑）は、孟子不動谷の田園景観保持に大幅に寄与している。</p> <p>、大旗山尾根道の整備 山頂部に南北朝期・楠正久築城の畠山式城郭：篠ヶ城をいただく大旗山の文化めぐりの尾根道を整備。周辺部のハイキングルートとして認知され、市販のパンフ等にも掲載されている。</p> <p>、僧兵の道の整備 伊太祁曽神社から山東大河内をめぐるかつて南海電鉄が整備した「竹の道みかんの道」を、孟子里山公園まで延長した「僧兵の道(伊太祁曽ロード)」を和歌山県からビオトープ孟子への業務委託により整備し、現在も周辺部のハイキングルートとして認知・活用されている。</p>	
	対象	6.里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	
		生活行事	＊ 無農薬稲作・畑作、七草粥・小豆粥
		資源利用技術	＊ 孟子周辺に多いクヌギ材を活用した「菊炭」焼き
	取組内容		その他
	取組内容		
連携・協働による 取組内容・役割分担等	<p>和歌山県環境生活総務課が主催している環境教育や教職員研修事業などで、県の「環境学習アドバイザー」に登録されているビオトープ孟子の理事がサポートを行っているほか、県・市の委託により、同会が里地里山保全管理を孟子不動谷及びその周辺で行っている。</p>		
取組の特徴や強調したい点	<p>地元公民館との協働事業</p> <p>・ビオトープ孟子が行っているような活動は、地元の方々との連携を密にしたものとして行わないと必ず頓挫するものである。</p> <p>・そういう意味あいからも、同会は、地元の方々との連携を第一に考えて運営を行っている。</p> <p>・その一つの取り組みとして、地元にある北野上公民館との協働により、「サークル活動」や、「子ども里山教室」の実施に取り組んでいる。</p>		

取組の概要	耕作放棄農地をビオトープ化し、無農薬米・ソバを栽培、販売	課題グループ
事例の特性	循環型農業（耕作地管理）	野生生物 手法
取組の中で他の地域の参考となる点	稲作水系に依存する動植物の保全を目的に、地元活動団体が生息拠点としての「とんぼ池」を管理しているほか、無農薬水田を増やす必要があるとの認識から米・ソバを栽培し、収穫した産品を販売することで管理面積を増やしている。	